

## わい性インゲンの有望品種「MX-65」の特性

農業研究センター 天草農業研究所

担当者：中島 豪

### 研究のねらい

サヤインゲンの主要産地である天草地域では、生産者が高齢化する中、栽培が容易で収量性が高く、曲がり等の不良莢が少ない品質の優れた品種の導入が望まれている。

そこで、半促成、抑制栽培に適した丸莢、すじなしのわい性有望品種を選定した。

### 研究の成果

#### 1 選定した品種

「MX-65」(協和種苗)

#### 2 特性概要

- (1) 草丈は、半促成栽培において75cm程度で、分枝数が多く草姿が立性となる(表3)。また、葉の大きさは「キセラ」と同程度で、葉色はやや淡緑である。
- (2) 収穫量は、着莢数が多く一莢重も比較的重いため、半促成、抑制栽培共に非常に多い(表1、2)。また、収穫は期間を通して安定しており、長期間の収穫にも向く(図1)。
- (3) 莢品質は、曲がり極めて少ない揃いの良い形状で、上物率も高い(表1、2)。  
なお、果皮は「キセラ」よりやや淡緑色で、種子部の肥大も僅かに早い。

### 普及上の留意点

- 1 耐寒性は「キセラ」と同程度、耐暑性は「キセラ」よりやや優る傾向にあるので、半促成長期どり、露地抑制栽培に適する。
- 2 草勢は中程度だが、草姿が十分にできる前から着花、着莢が多くなるので、追肥を早めに施用し草勢を強めに維持する。
- 3 子実の肥大が「キセラ」より早いため、収穫はやや短めの12~13cm程度を目標として、収穫遅れによる上物率の低下を抑える。

表1 半促成栽培における収積量 (平成8年2月6日播種)

10株当たり

品種名	上物		合計		上物率 1	上物 1 莢重量	曲がり 発生率	上物 単位収量 2	莢色 3	子実 肥大 4
	本数	収量	本数	収量						
	(本)	(g)	(本)	(g)	(%)	(g)	(%)	(kg/a)		
M X - 6 5	1,302	5,485	1,671	6,887	77.9	4.2	18.2	241.3	3	3
ライトグリーン	1,066	4,363	1,338	5,386	79.6	4.1	18.0	192.0	2	4
キセラ	1,062	3,903	1,689	6,135	62.9	3.7	34.0	171.7	4	2

注) 1 上物率:本数% 2 単位収量:作付け本数 440本/a  
3 莢色:濃緑5~淡緑1 4 子実肥大:大5~小1

表2 抑制裁培における収穫量 (平成8年8月27日播種)

10株当たり

品種名	上物		合計		上物率 1	上物1 莢重量	曲がり 発生率	上物 単位収量 2
	本数	収量	本数	収量				
	(本)	(g)	(本)	(g)	(%)	(g)	(%)	(kg/a)
M X - 6 5	731	2,999	945	3,837	77.4	4.1	17.0	132.0
ライトグリーン	572	2,309	807	3,209	70.9	4	24.2	101.6
キセラ	444	1,963	819	3,343	54.1	4.4	43.3	86.4

注) 1 上物率:本数% 2 単位収量:作付け本数 440本/a

表3 生育状況(平成8年半促成作)

品種名	収穫終了時(平成8年7月9日)			
	草丈	葉長	葉幅	分枝数
	(cm)	(cm)	(cm)	(本)
M X - 6 5	78.2	11.2	6.8	91.9
ライトグリーン	73.2	12.3	8.3	57.9
キセラ	72.8	11.6	7.9	73.9

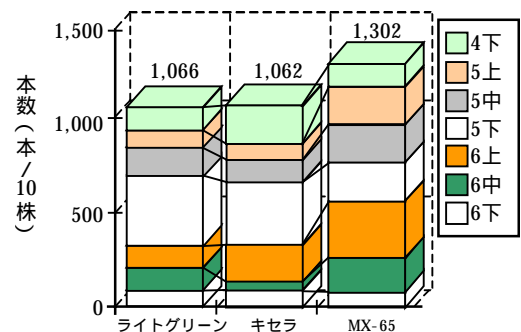


図1 主要品種の旬別の上物収穫本数 (平成8年半促成作)

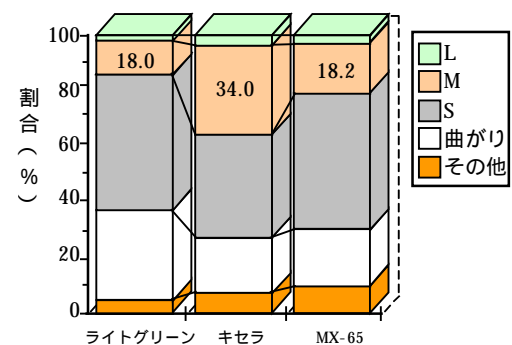


図2 主要品種の規格構成 (平成8年半促成作)



写真1 主要品種の収穫莢